ワカサギ卵の放流について

石崎博美・高橋昭夫

相模湖におけるワカサギ資源調査事業の一環としてワカサギ資源の増大を図るためワカサギ卵のふ化放流を行なった。

相模湖へのワカサギ卵の放流については、毎年地元相模湖町および相模湖釣舟連合組合等においても実施している。昭和46年度は当場から4,000万粒、地元相模湖町及び藤野町から4,000万粒、計8000万粒のふ化放流を実施した。

ワカサギ卵は長野県諏訪湖産のものを購入し、昭和47年3月31日に卵の検収と同時に湖へふ化箱のセットを行なった。卵のセット、管理場所は汚水や風波の影響の少ない青田入口を選定し、卵は木箱（100cm×45cm×22cm）40箱に収容し、ロープで固定した。卵箱の固定作業にあたっては相模湖釣舟連合組合および相模湖遊舟連合組合の協力を得た。

卵の収容からふ化までにおける状況は表1のとおりであるが、卵収容3日後から発眼が始まり生卵率（$\frac{生卵数}{購入卵総数}$）（発眼率）は29.9%と低く死卵の発生が進行した。卵の発眼は湖へ収容した後に始まっており、ふ化条件は悪かった。このため発眼率は低い状態となった。ふ化直前における生卵率は調査卵数2,050粒では8.7%であった。これからふ化稚魚数を推定すると1,040,000尾程度と考えられる。放流卵数4,000万粒に対するふ化率は2.6%と低い数値であった。

ふ化までの卵の管理についてはマラカイトグリーンにより水生菌の発生防止を行なったほかは特に措置を講じなかった。ワカサギ卵のふ化放流は現在のところ他県産に依存せざるを得ないが、相模湖においても、ワカサギ親魚の採捕方法を構ずることにより自家採卵が可能であり、最近試採卵が行なわれている。今後

表 1　ワカサギ卵の放流状況

摘要		備考
卵購入先	長野県漁業協同組合連合会	
卵購入数	4,000万粒	
採卵場所	諏訪湖　長野県諏訪湖漁協	
採卵年月日	47 3 10～12	
卵放流月日	47 3 31	
卵放流場所	相模湖青田	
ふ化中水温	13.0～14.9℃	
〃 P・H	7.6～8.8	
ふ化率（%）	8.7	発眼卵からの生卵率
生残率（%）	2.6	$\frac{ふ化稚魚数}{放流卵数}$
ふ化仔魚数（尾）	1,040,000	

のワカサギ卵の放流については相模湖においての自家採卵を目的とした親魚の採捕方法の検討と、ふ化率の向上を図るうえでの卵の管理、購入方法等について検討していかなければならない。